

工学系の関数解析 POD版 正誤表

2019年9月25日
2019年12月27日追記
2020年2月12日追記

頁	行数, 図・表・式番号	誤	正
33	16行目	…となり, $0 < 2 - \alpha q < 1 (q \neq \infty)$ となる.	…となり, $2 - \alpha q < 1 (q \neq \infty)$ となる.
38	11行目	$f \notin S_1$ かつ $f \notin S_2$ と仮定すれば, …	$f \notin \overline{S_1}$ かつ $f \notin \overline{S_2}$ と仮定すれば, …
55	下から3行目	しかも, $\psi(f) > 0$ より $\alpha > 0$ であるから, …	しかも, 任意の $\tilde{f} \in S$ に対して $\psi(\tilde{f}) > 0$ より $\alpha > 0$ であるから, …
57	下から8行目	$\left(\frac{1}{\ \mathbf{1}\ _r} \right)^{1/s} = \left(\frac{ a_n ^p}{\ f\ _{ps}^p} \right)^{1/r}$	$\left(\frac{1}{\ \mathbf{1}\ _r} \right)^{1/s} = \left(\frac{ a_n ^p}{\ f\ _{ps}^p} \right)^{1/r}$
62	定理 2.57 証明 5行目	$\{f_k\}_{k=1}^n$ の上界に ε を加えたものを K とおけば, …	$\{\ f_k\ \}_{k=1}^n$ の上界に ε を加えたものを K とおけば, …
72	下から9行目	…, たとえば $h(\mathbf{x}) = \mathbf{d}$ であったならば, …	…, たとえば $h(\mathbf{x}_0) = \mathbf{d}$ であったならば, …
77	4行目	$ \langle f_n, g_n \rangle - \langle f, g \rangle = \langle f_n, g_n - g \rangle - \langle f_n - f, g \rangle $	$ \langle f_n, g_n \rangle - \langle f, g \rangle = \langle f_n, g_n - g \rangle + \langle f_n - f, g \rangle $
103	定理 3.35 証明 5~6行目	$\begin{aligned} &\leq \left \ f_n\ ^2 - \ f\ ^2 \right - 2 \langle f_n, f \rangle - \langle f, f \rangle \\ &= \left \ f_n\ ^2 - \ f\ ^2 \right - 2 \langle f_n - f, f \rangle \end{aligned}$	$\begin{aligned} &\leq \left \ f_n\ ^2 - \ f\ ^2 \right + 2 \langle f_n, f \rangle - \langle f, f \rangle \\ &= \left \ f_n\ ^2 - \ f\ ^2 \right + 2 \langle f_n - f, f \rangle \end{aligned}$

143	4~6 行目	<p>$g = Ah$となる任意の g, h に対して,</p> $\ h\ \leq K \ g\ $ <p>となる, g, hに無関係な定数 K が存在する.</p>	<p>各 $g \in \mathcal{R}(A)$ に対して, $g = Ah$ かつ</p> $\ h\ \leq K \ g\ $ <p>となる h が存在するような定数 K が存在する. しかも, そのような h を使っても, $g = \langle h, f \rangle$ と表すことができる.</p>
230	定理 7.22 証明 2~3 行目	<p>$f \notin \mathcal{R}(A)$ のとき, $\mathcal{R}(T)$ は $\mathcal{R}(A)$ と $(I - AA^{\dagger})f$ との直交直和であるから, ...</p>	<p>$f \notin \mathcal{R}(A)$ のとき, $\mathcal{R}(T)$ は $\mathcal{R}(A)$ と $(I - AA^{\dagger})f$ で張られる 1 次元部分空間との直交直和であるから, ...</p>
232	下から 12 行目	<p>P は $P_{\mathcal{R}(A)}$ と h で張られる部分空間の上への正射影作用素になる.</p>	<p>P は $\mathcal{R}(A)$ と h で張られる部分空間の上への正射影作用素になる.</p>
243	定理 8.6 1~2 行目	<p>..., 点列 $\{f_n\}_{n=1}^{\infty}$ が f に強収束すれば, 各点 $x \in \mathcal{D}$ において, $\{f_n(x)\}_{n=1}^{\infty}$ は...</p>	<p>..., 点列 $\{f_n\}_{n=1}^{\infty}$ が f に強収束すれば, 各点 $x \in \mathcal{D}$ において, $\{f_n(x)\}_{n=1}^{\infty}$ は...</p>